# 東京交通新聞　2019年2月25日号

## カグラペーパーテック 玉井 健一 社長 インタビュー

# 社会ニーズに応える製品へ

## 簡易型ＬＰガススタンド「オートコンポ」

タクシー会社の自家用スタンドや過疎地のオートガススタンド代替として導入が相次ぐカグラペーパーテック（本社・兵庫県尼崎市）の簡易型LPガススタンド「オートコンポ」。燃料コストの削減メリットに加え、過疎地のくらしの足確保、自治体や企業の災害対策など社会的ニーズに応えるLPガス車のインフラとして大きな成長を遂げている。昨年、創業60周年を迎えた同社、玉井健一社長に開発からこれまでを振り返ってもらった。

昨年は災害時のエネルギー供給拠点の社会的役割が評価され、兵庫県の「ひょうごNO1ものづくり大賞」選考委員会特別賞を受賞。「今後もLPガス自動車の普及に貢献したい」と語る玉井社長（尼崎市の同社本社で）

### 軌道に乗るまで10年 省令位置づけで飛躍

――カグラペーパーテックにとって「オートコンポ」とは

「主な事業はガス感応店向けのペーパーライザーを中心としたLPガス供給設備の製造。その中で2005年に発売したオートコンポはLPガスのエンドユーザー向けの製品で会社にとっては新たなチャレンジだった。話し合いの上開発はしたものの、当時LPガス簡易型自家用スタンドは法令で位置付けられておらず市場に受け入れられるかもわからなかった。軌道に乗るまで10年、苦労を重ねただけに思い入れの強い製品だ」

――特に苦労した点は

「法律が想定していない製品であったため高圧ガスの届け出に関して都道府県ごとに見解がまちまちで、普及の大きな障壁になっていた。ニーズはあっても導入がスムーズに進まず、何度も挫折しかけた。しかし、あきらめずに簡易型スタンドを広く認知してもらうべく、同業者とLPガス簡易スタンドメーカー連絡協議会を発足。経済産業省に粘り強く省令改正の要望を続けた。その結果、2012年に高圧ガス保安法の規則に〝差圧式LPガススタンド〟として位置付けられた。省令改正が実現した時は苦労が報われた思いで感無量だった。そのころからようやく公的に売れるようになった」

### 提案型商品に成長 新たな可能性に気づく

――現在は災害時の燃料確保、過疎地のスタンド維持など社会的役割も注目され、普及の後押しとなっている

「オートガスの需要が減る中で地方のLPガススタンドを守るための選択肢になっている。過疎地のくらしの足確保のお役に立っているとも聞く。2013年からは経済産業省の災害バルクの補助金の運用を受け、地域の災害対策に貢献する製品として認められている。導入時に自治体と災害協定を結んだタクシー会社は9県11社に上り今後も増えそうだ。最近は企業のBCP（事業継続対策）としても評価されている。社会的ニーズの高まりによって国から普及を期待されるまでになった」

――オートコンポの存在価値が高まっているようだ

「オートコンポをインフラとして活用した新たなビジネスモデルが求められるようになり、明らかな提案型商品に成長している。タクシー会社などLPガス最終ユーザーと接点を持ち出会うことが気づきや転機となり、今までに感じなかった可能性が拡がり、これまで以上に社会に貢献できる製品へと成長する手応えがある」

### 手間を惜しまず磨き 先を読み挑戦続ける

――LPガススタンドはLPガス自動車あっての製品でもある

「オートコンポはプロパンガスを充填できる唯一の簡易型スタンドシステム。プロパンガス充填所は全国津々浦々にあり、汎用性があって価格も安い。オートコンポとともにプロパンガス自動車の普及にも力を入れたい」

――オートコンポを通じて今、思うことは

「ニッチな製品として社員全員で手間を惜しまず粘り強く開発を続ける中で多くのことを学んだ。完成後もお客様のニーズをくみ取り、マイナーチェンジや大型モデルのラインナップなど製品のブラッシュアップにも力を入れている。新製品は開発からひとり立ちまでに時間もかかるが諦めないことだ。歩みを止めることなく先を読み、新たなチャレンジをしていきたい」

館山造船（千葉・館山市）

## 地域唯一のスタンド くらしの足を守る

千葉県館山市の燃料販売会社「館山造船」（山崎邦弘社長）。市内唯一のLPガススタンドとしてタクシー会社3社の燃料供給を担っている。

館山湾に面した敷地で大型の燃料タンク2基とディスペンサー2基で経営していたが、タンクの老朽化が進み県の指導で1億円以上もかかる代替えが必要に。需要が減少する中、高コストの代替えは不可能。存続するか悩んでいた時、カグラペーパーテックから「オートコンポ」の提案を受けた。

館山湾に面した敷地で大型の燃料タンク2基とディスペンサー2基で経営している。

「利益も出て地域を支える責任が果たせている」とオートコンポの前で明るく語る山崎社長

館山市は房総半島の南端に近く、人口減少に加え高齢化率は38％（2018年）、地域によっては50％を超す超高齢化地域。一人暮らしの高齢者も多く、離れた大型スーパーや病院への往復にタクシーが日常的に利用されている。「タクシーはお年寄りの生活に直結した必要不可欠な存在。そのタクシーを支えるLPガススタンドが撤退するわけにはいかない、という思いがあった。費用が5分の1でコンパクトなオートコンポなら可能と判断した」と山崎社長。

2・6tのバルクとディスペンサーは車1台分のスペース内に収まっている。配管、ダクトの熱絶縁工事などを手がける浅野保温（愛知県扶桑町、浅野朋幸社長）は1月29日、本社に「オートコンポ」を導入、開所式を行った。同社の保有する8台のハイエースをLPG車に転換するとともに、災害時には地元扶桑町への地域貢献として住民へのLPガスを燃料とした電源供給などを行っていくことにしている。

浅野保温（愛知・扶桑町）

## 炊き出しや電源供給 災害時は地域に貢献

開所式には自治体も駆けつけた（1月29日、左から浅野保温社長、扶桑町犬飼主幸、小川石油社長、玉井社長）

開所式には扶桑町の犬飼みのり主事や、スタンドへのガス供給を行う小川石油の小川哲生社長らが出席し、導入を祝った。カグラペーパーテックの玉井健一社長も加わり、運用開始のテープカットを行った。非常用ガス栓ボックスとLPガス発電機を活用した炊き出しでは、出席者にカレーライスが振る舞われた。

浅野社長はあいさつで、「スタンドの導入で会社の利益につながり、かつ地域貢献ができる」と意義を強調した。

「今後は館山の活性化にも貢献していきたい」と語る。古い機器の修繕費もかからず経費は30％ほど削減できたという。

「オートコンポはプロパンガスを充填できる唯一の簡易型スタンドシステム。プロパンガス充填所は全国津々浦々にあり、汎用性があって価格も安い。オートコンポとともにプロパンガス自動車の普及にも力を入れたい」

――オートコンポを通じて今、思うことは

「ニッチな製品として社員全員で手間を惜しまず粘り強く開発を続ける中で多くのことを学んだ。完成後もお客様のニーズをくみ取り、マイナーチェンジや大型モデルのラインナップなど製品のブラッシュアップにも力を入れている。新製品は開発からひとり立ちまでに時間もかかるが諦めないことだ。歩みを止めることなく先を読み、新たなチャレンジをしていきたい」

企画・制作　東京交通新聞社広告部

カグラペーパーテック　〒661－0025　兵庫県尼崎市立花町１－２－１　TEL:06－6429－5820/FAX:06－6422－0134　http://www.kagla.co.jp